

Project	地域教育専攻	
	D05 特別なニーズのある子どもの余暇支援プロジェクト(2023)	
メンバー	[学 生]	牛島 昌、高井美祈、古川心菜、松田彩音、橋本汐音、渡辺菜々子、鈴木緋菜 内山美奏、山口水緒、小林未羽、小倉紀香、兼平このは、福田音羽、小河 光
	[担当教員]	細谷 一博

【背景】

障害のある人たちの余暇の過ごし方がマスメディア中心になっていることや、選択できる余暇の種類が少ないことから、充実した余暇の過ごし方ができるように遊び・スポーツの場所を提供することが求められている。



知的障害のある人にスポーツを

【目的】

本プロジェクトでは、障害のある人たちの余暇支援のため、スペシャルオリンピックス(SO)の場を提供した。活動を通して、障害のある人たちの余暇活動の支援や運動できる場を用意し、身体を動かすことの楽しさを知ってもらうことが目的である。

【概要】

4月から12月までの間、ヤングアスリートプログラムの企画・運営を行い、実際にアスリートたちと交流した。ヤングアスリートプログラムとは、2歳半から7歳の幼児期の特別なニーズのある子ども(自閉症、ダウン症)を対象にした、スポーツと遊びを融合させたユニークな活動である。

※掲載している写真は全て保護者の承諾を得たうえで使用

【プロセスと成果】

一年を通じて実際にヤングアスリートプログラムの企画・運営を行いアスリートと交流した。

スペシャルオリンピックスの内容をもとに、全ての子どもたちが積極的、自発的に遊びに参加できるような、活動を企画し実行し、全体を通して簡潔で分かりやすい指示と活動内容を心掛けた。

1回目では、活動によって子どもの参加率がバラバラで、活動を変えると子どもたちが意欲的に参加する姿が見受けられた。それを踏まえて2回目からは、子どもたちが遊べる活動パターンを選べるようにしたことや、片付けも楽しくできるようにしたこと、活動に参加する子どもが多かったが、休憩をはさんだ後の集合の合図に工夫がなかったため、子どもがうまく集まらなかった。

後期からは前期での指示や注意の仕方などの反省を活かして、集合の合図を統一し、集合時間前の呼びかけや集合場所の明示などを行った。6回目の活動時に比べ最終の10回目では、集合がスムーズになり、座って話を聞く子どもが増えた。9回目の活動では、プラズマカーをマリオカートに見立て興味を持ってもらえるような活動を考え、10回目では、クリスマスが近かったため、「サンタさんのお手伝いをする」という目的を持たせることで、内容が子どもにも伝わりやすく、子どもの活動意欲を高め、参加率を高めることが出来た。



【11月 12日 第4回「SO⑨」】



【12月3日 第5回「SO⑩」】

**【総括と反省・今後の課題】**

前期には、子どもの様子を見て安全に活動を行うことができた。また、全員が参加することのできるような遊びや体全体を使うような遊びを考えることができた。一方で、遊びと休憩の切り替えがうまくできず、1つの遊びが終わってもなかなかやめられない子がいたり、休憩の時間に自分の遊びに集中してしまい、次の活動に参加できなくなってしまうということがよくみられた。そのため、集合の合図に工夫が必要であるという課題があげられた。

後期は、遊びのなかにルールを設けて、全員が参加できる活動を展開することができた。前期の活動で子どもそれぞれの興味やどんなことをすると喜んでもらえるのかということが理解することができたので、それらを活かして全員の子どもが楽しむことができた。さらに、本来の目的である体を使うことを主軸とした活動を企画・運営することができた。

年間を通して、集合の合図に工夫をすることができた。タイムタイマーを活用し、時間になってから声かけを行うのではなく、あらかじめあとどれくらい自分の遊びや休憩をしていいのかということを確認にした。その結果、次の活動に切り替えることができる子どもが増え、活動に参加することができた。また、子どもたちにとってわかりやすい活動を計画することを意識することで、子どもが進んで活動に参加することができていた。

**【地域からの評価】**

多くの地域の方々から、活動に対して肯定的な意見や魅力的な活動であるという感想をいただいた。

障害のある子ども達の余暇支援や運動の場の提供という目的は大変価値のあることであり、当事者から大きな需要があるのではないかとのお声もいただくことができ、一年を通しての活動に自信を持つことができた。

また、実際に活動で使用した遊び道具を使用してもらったことで、活動の様子をより鮮明に想像してもらうことができた。それにより、活動の内容に関して、詳細な部分までご理解いただいたのではないかと予測する。

疑問点や意見については様々なものをいただいた。まず、活動で行う遊びについて、障害を持っている子どもたちは各々異なる特性を持っていると予測するが、その中で行う遊びは全員同じものであったのかという質問をいただいた。続いて、子どもたちの集合方法を工夫したとは一体どのようなことかという質問をいただいた。頂いた意見は大変、的を得た質問で私たちの活動を改めて振り返ることができた。

ご意見について、自閉症やダウン症の子ども達に活動で行ったような遊びは適当ではないのではないかとのご意見をいただいた。ご指摘の通り、実際の活動では子ども達に十分に遊んでもらうことができないものや、退屈させてしまったものがあったため、そのような意見を受け止めて今後の遊びの活動の提案に活かしていきたい。

最後に本プロジェクトにご参加いただきました子ども達や保護者の皆様に記して感謝申し上げます。

**【その他】**

**<年間活動スケジュール>**

前期			後期		
月	日	内容	月	日	内容
5	7	第1回 SO	10	8	第1回 SO
	10	企画会議①		11	企画会議①
	17	企画会議②		18	企画会議②
	21	第2回 SO		22	第2回 SO
	24	企画会議③			(中止)
	31	企画会議④		25	企画会議③
6	4	第3回 SO	11	1	企画会議④
	7	企画会議⑤		5	第3回 SO
	14	企画会議⑥		8	企画会議⑤
	18	第4回 SO		12	第4回 SO
	21	企画会議⑦		15	企画会議⑥
	28	企画会議⑧		22	企画会議⑦
				29	企画会議⑧
7	2	第5回 SO	12	3	第5回 SO
	5	企画会議⑨		6	報告会準備
	12	企画会議⑩		13	報告会準備
	19	企画会議⑪			
	22	中間報告会			
			1	24	報告会準備
				31	報告会準備
			2	3	最終報告会

